

サッカー2級審判員試験

関川さん(8^{学光星}年)合格

県内女子ユース初

「選手と一緒に試合つくる」

八戸学院光星高校3年の関川伽音さん(18)が、11月に宮城県石巻市で行われたサッカー2級審判員の実技と筆記の試験に合格した。女子ユース世代(18歳以下)での2級合格は県内で初。2級は男子の東北大会レベルの主審を担当できる。関川さんは「選手に仲間意識を持ってもらえるようなレフェリーを目指したい」と意気込んでいる。

(野村遥)

サッカー審判員は日本サッカー協会(JFA)が認定。県サッカー協会によると、12月上旬時点で本県登録の2級審判員は63人。この中に10代以下はわずか、女性は6人ととまるとる。

関川さんは小学2年で八戸市内のクラブチームに加入しサッカーを始めた。中学3年の冬、当時の監督の勧めで3級審判員の資格を取得。実技試験で県協会の関係者から感賞の良さを褒められて、「もう少しやってみよう」と審判の腕を磨く気持ちが増えたという。高校では女子サッカー部に所属し選手としても活躍していたが、「審判員としてもっと上を目指したい」

練習を休んでチームに迷惑をかけるのも嫌」と、2年生の秋に審判員の活動に専念することを決断。3年生になると毎週末に県内外を飛び回り、100試合以上をこなす経験も積んだ。念願の合格を、関川さんは「人生で最高の瞬間だった」と振り返る。

関川さんが試合で心がけているのは笑顔。「審判は選手より上の立場じゃなく、一緒にゲームをつくる仲間だから怖いとか敵だとか思っただけじゃない。関わりやすい印象を持ってほしいので、試合前から声をかけた後、笑顔で選手と接するようになっている」と信念を語る。

関川さんは今後、本年度末に行われる体力テストと認定講習会を経て、正式に2級審判員の資格取得となる。今月26〜29日に鹿児島県で開催される全日本U-12サッカー選手権では、ユース審判員として主審を務めることも決まっている。19日に閉幕したワールドカップ(W杯)カタール大会では、日本の山下良美さんが史上初の女性審判員に名を連ね、6試合で第4の審判員を務めた。「私ももっと上の世界を見てみたい。女子1級や国際審判員になりたい気持ちがある」と関川さん。「女子でもこれくらいできるんだと伝わるレフェリングができれば」と力を込めた。



サッカー2級審判員の試験に合格した関川さん



9月に八戸市で行われた女子サッカーの試合で主審を務める関川さん(本人提供)